

# 曙光



1998. 4. 1

東北大学大学教育研究センター広報 No. 5



青葉山における火山灰の観察風景

## 新入諸君の将来

東北大学総長	阿部 博之	……	2
新入生の皆さんに			
大学教育研究センター長	江幡 武	……	4
全学教育担当の思い出			
工学研究科教授	武部 雅汎	……	6
言語文化学部教授	半田 恭雄	……	7
国際文化研究科教授	小川 陽一	……	9
情報科学研究科教授	細谷 昂	……	10
情報科学研究科教授	望月 望	……	11
大学教育研究センターの紹介		……	13
大学教育研究センター組織図		……	15
新入生に贈る未解決問題：情報通信倫理			
情報処理教育センター教授	静谷 啓樹	……	16

## 学生からの投稿

文学部 4 年生	芦田 麻里	……	17
教育学部 4 年生	渋谷 晃太	……	18
理学部 4 年生	大下内 伸	……	19
薬学部 4 年	ダーナ ブランゼイ	……	20
新入生への窓口案内			
窓口の紹介		……	21
窓口開設時間		……	21
窓口業務案内		……	21
川内北キャンパス施設配置図		……	23
川内北キャンパス教室案内		……	24
学生実験室配置図		……	25
川内北キャンパスの交通規制について		……	26
川内北キャンパス交通規制図		……	27
全学教育科日の学生アンケート調査 (1997) から		……	28
仙台市街図・あとがき		……	34



## 新入諸君の将来

東北大学 総長 阿部 博之

入学おめでとう。皆さんは、研究大学としての建学の精神と伝統を持つ東北大学の学生になったことを、まずは記憶して欲しいと思います。

研究の重視は、実は教育の重視でもあります。特に最高の大学院教育は、優れた研究者によることを必要とします。このことは学部教育にもあてはまります。

さてわが国はいま、大きい転換期にあります。テレビや新聞に不透明感が漂っていますが、一口でいえば、この転換への対応ができていないことによります。

皆さんは、推薦入学の一部を除いて、ペーパーテストが得意であり、入学が許可されました。この力は、技術導入に象徴される、産業技術のキャッチアップ時代においては、高く評価されました。企業は好んで大学入試の秀才を採用したのであります。しかしこの神話が続いたのは、せいぜいバブルの頃までで、その後これに対する疑問が少しずつ増えてきています。

一流企業や官庁において、大学入試の一流大学出身の幹部による不祥事が顕在化しています。中には単純にモラルの欠如の事件もみられます。しかし多くの場合は異なります。その組織に忠誠であるが故に埋没し、組織内論理の中の競争で勝ち残った人々です。優秀ではありますが、外からみると自己の確立ができておりません。その組織から離れると、ただの人になってしまうのです。要するに、わが国の知的リーダーの体質改善がせまられているのです。

ペーパーテストの能力は、確かに大切です。しかし将来の社会人に必要な一つの物差しでしかないのです。

米国流の大学入試には、この他に、高校の活動実績があります。スポーツ、芸術、奉仕活動、得意な分野における大学への単位取得等です。さらに、英語（母国語）の実力も問われます。欧米各国からみると、わが国の大学入試は残念ながら極めて特殊であるといわざるを得ません。わが国の入試の改革は、これからも確実に進むでしょう。皆さんは、従来型の選抜の勝者という位置付けということになると思います。

皆さんが大学（ないし大学院）を出て、社会で活躍する近未来について考えてみましょう。

わが国が得意な、多品種規格大量生産型産業に加えて、いわゆる新産業が急増するでしょう。製造業だけの話ではありません。企業の経営は国際化の波を大きく受け、人事システムは欧米型に変わり始まるでしょう。今までのような終身雇用制は、善し悪しは別として、大幅修正されると考えた方が

賢明です。これまでのように、国内のみに通用する論理と慣行では、わが国は孤立してしまいます。企業内教育に大きく依存する時代は終わり、高等教育の根幹は大学に戻ってきます。わが国にとって、国際競争ができる、国際舞台で活躍ができる、知識職業人がどんどん必要になっていくことは間違いありません。

これからの東北大学生は何に心掛けたらよいでしょうか。

第1に、専門職業人を目指すことです。将来企業等の組織に所属する場合でも、個人としてのアイデンティティを持つことに加えて、組織の健全な発展につながります。第2に、海外に通用する資質を身につけることです。例えば、知識職業人にとって英語の使用は不可欠です。第3に、自立心、批判精神の涵用、第4に、体力の増進です。第5に、志を立てることです。これが一番大切かも知れません。

わが国は古来、自立心の高揚と立志を大切にしてきました。このことは欧米からも評価されていましたが、残念ながら希薄になってしまったのです。しかし第2次大戦後のすなわち最近の現象にすぎません。

皆さんの大学入試の力に加えて、上述の項目に心掛ければ、皆さんの将来も、わが国ひいては人類の未来も明るいでしょう。とはいえ、早合点して専門知識の修得だけに走らないで下さい。リーダーにとって、文化、哲学などの幅広い教養が必要です。専門だけで処理できる問題は限られます。地球環境問題がその好例です。どのような専門職業人を選ぶかに年月をかけて下さい。ただし今からが大切です。

幸いにして東北大学には、わが国を代表する専門家が多数おられます。相談したい事項があれば、遠慮なく質問して下さい。楽しい、そして意義のある学園生活を期待します。



## 新入生の皆さんに

大教育研究センター長 江 幡 武

東北大学に入学されておめでとうございます。梅、桜をはじめとする様々な春の花が咲き始めているのですが、皆さんの希望で一杯の心境に今の季節は丁度マッチしているのではないのでしょうか。

大学では、全学教育科目と学部専門教育科目を学ぶことになります。専門教育科目が皆さんにとって重要な意味をもっていることは、言うまでもないことでしょう。では、全学教育科目を学ぶ意味はどうでしょう。全学教育科目の一つである教養教育科目を学ぶ目的は、「基礎的素養を幅広く培うことによって、専門閉塞を避け、広い視野と柔軟な思考力を養うこと」とされています。いくつかの個別の授業を聞いたからといって、そのような広い視野や柔軟な思考力が簡単に身につくものなのでしょうか。先生の講義や講義に関連した参考書を読むことをきっかけにして、自分で考えたり、幅広く学ぶ方法を修得することが大切だと思います。これまでの数十年に、我々を取り巻く状況は驚くほど変化しました。科学・技術の発達、それに伴う社会の変動、環境の変化は、少なくとも私の予想を大きく上回っています。恐らく、21世紀になっても、変化は続いて行くでしょう。大学で学ぶ専門知識も、このような変動の中では、そのままではすぐに陳腐なものとなってしまうでしょう。変化に対応するためには、「生涯教育」が必要であり、学習が維持できる柔軟性を保つことが必要です。そのための一つの手掛かりとして教養教育科目が開講されているのだと思います。

今年度からすべての1年生に情報処理教育センターのアカウント番号を配布することにしました。情報処理教育センター内の自習室及び中央図書館に置かれた端末を利用すると、全学教育に関する様々な情報を得ることができます。また、授業などで先生と連絡をしたいときにはイーメール(e-mail)を活用することもできるようになります。質問したり、話をするためのアポイントを取るのに、電話で直接先生をつかまえる必要がないので、ぜひ活用して下さい。すこしぜいたくをする余裕があれば、自宅のパソコンでセンターの掲示板をみれば、朝出掛ける前に休講を確かめることもできるはずです。

大学生活の基本は自立だと思います。自立には、自由とそれともなる責任が付随します。授業に出るのも、サボるのも、そしてさまざまな課外活動やアルバイトに熱中することも、すべて自分の選択の範囲にあります。とはいうものの、振り返ってみると青春時代と言うのは、悩み、迷いの時代で

もありました。困ったことがあれば、先生、先輩、友人に積極的に相談しましょう。学生相談所を訪れるのもよいと思います。

自立の一つの証として、喫煙を始める諸君が少なくないようです。喫煙は本人のみならず周囲の人々の健康をも害すると言われていています。アメリカ流に、公共の場所での喫煙は制限すべきだとの強い意見も寄せられています。暖かい季節を迎えて、喫煙場所を屋外に移設することにしました。皆さんは、分煙についてどう考えますか。 이메일의練習の手始めに、大学教育研究センターにご意見を寄せてみてください。勿論、その他の話題についても結構です。

おしまい、注文を一つ。授業時間中に廊下を歩くときには、大声を控えましょう。大変授業がしにくいという苦情が寄せられています。

## 全学教育担当の思い出



## 学生実験雑感

工学研究科教授 武部 雅 汎

大学での学生実験を担当したのは古く、修士一年になった時からである。新設の研究室で助教授1、助手1だけで、しかも新しく学生実験を分担し、その準備をしなければならず、なりたて二人の院生も手伝う羽目となった。テーマの選定、試薬の濃度、混ぜ方、必要時間、すべて自分でやってみて工夫し、時間内で指導書に示してある要点が体験できるようにした。できるだけ計算値、理論値に合うように準備する。

そして、そのように結果の得られるテーマを選んだ。だから、こちらの予定通りに結果が得られれば成功とした。それでも準備した通りにはならないことがあった。

しばらくして、また学生実験を担当することになった。今度は原子量を求めるものであった。実験を終わって、学生の実験レポートを読むと、彼らは正確な原子量を教科書などで知っている。すなわち答えを知っている。そして、自分の得た値が答えとかけ離れていることを知ると、ほとんどが反省の弁で考察は終わる。実験に失敗した、実験が下手だからなどと続く。原子量とは身近なもので、簡単な実験でもわかるものだということを体験させようとして行った実験も、結局彼らに非力、無力感を植え付けるだけで終わってしまったような気がしている。

それに懲りて、こんどは実験方法を指示しない実験をさせることにした。たとえば試薬の濃度、使用量は自分で決めるようにする。こちらは多種類の器具、試薬を用意し、要求のあった

ものを出すようにした。各実験段階でどの点が重要で、それをしないとどんな結果になるかを体験させようとしてでのことである。しかし、これも手間の割には効果が疑問であった。なぜなら最初のグループが実行して探し出した条件を終わりの方のグループは聞き出して、その情報の基に行く。自分たちで考えで条件を選定しないのである。

実験は手間のかかるものである。そして、ほとんどが失敗の連続である。まして条件を探りながら行うのはいくら時間があっても足りない。時間内で終え、まとまった体験を期待すると、どうしても親切な指導書が書かれる。料理の本のようになる。失敗をさせない。失敗を意識的に経験させる実験はあまりやらない。しかし、失敗こそ勉強である。自分の経験、知識に基づいて、こうなるはずだ行って、その通りにならないときが最も勉強になる。ラジオ製作は人気のテーマであった。ラジオが鳴れば成功である。渡された回路図通り素子をつなげば普通は鳴る。しかし、鳴らないときがもっとも勉強である。原因追究の時、各素子の動作も理解できるようになるが、それを行う時間的余裕がない。

学生は研究室に入るとテーマに沿って実験をする。この時、実験結果を比べるのはたいてい理論値か、他の人の結果である。そして、他の人の結果とか理論値に合うと実験は成功したとして学生は喜ぶ。そして、実験はそこで終わる。

しかし、これは研究実験としてはあまり意味のあることではない。誤差を考え、実験条件を考え、事実は理論値とこれだけ異なっていると確信をもって云える。これが実験である。はじめから答えのある実験だけを行っているとは答えに合わないときは失敗であり、自分が悪く、答えに合っているときは成功となる。 $1 + 1 = 2$ だと教えて、2にならないときは自分が悪い、失敗だと教えていくと、あらゆるものが2になるものだと思ひこむ。事実は逆で2になるものだけを教えているのである。全てがあてはまるわけではない。教科書はうまく説明できることだけを集めて説明しているのである。あてはまる所だけがオームの法則となるのである。これが全てではない。ということあまり体験させないような気がする。答えを性急に押しつけて居るような気がする。

実験は楽しいものである、まして予想した通りにならない時、この時が最も楽しいときであ

ると常に口癖にしていた先生がいた。だからうまく行かない時に相談に行く度、実に嬉しそうに実験台へ向かって下さった。そして、うまく行かない理由をこちらから訊きながら楽しそうに推理するのである。実験操作の失敗から生まれた新しい発見は多い。どんなことが起こっても事実を見つめることから得られることは多い。意識的にはできないことが体験できるのである。濃硫酸に水を混ぜてはいけない、危険であると教えられている。絶対に行ってはいけなるとされている。しかし、どんな条件でどのくらい危険か体験させることはなく、またそれが起きた時にどのような処置をすれば良いのかも教えない。失敗からの戻り方、失敗の生かし方これを体験する方が大切な気がする。

自らの知識、経験から結果を予想し、実行してみた結果を解釈し、納得のいかない点を再度条件、方法を変えて挑戦する。そんなことが学生実験でできたらなどと考えることがある。



## 四十年前二十三

言語文化部教授 半田恭雄

わが「つひのすみか」言語文化部での、最後の年もおしつまったころ、最終講義の予定はないか、という問い合わせを受けました。ない、と返しましたが、じつは私の「最終講義」は、すでにスタートしていたのです。

長い年月をドイツ語の手ほどきにたずさわった身として、最後の年のドイツ語基礎演習こそ、わが「最終講義」と思いさだめ、その開講時に、君たちと学習するこの一年がオレの最終講義なのだ、と宣言して、すなおに私をふりあおいで

いる新生たちに、それとなく決意をうながしました。

私は毎年、初回に2, 3語の文章で名前や出身地を聞くデモンストレーションをします。このときは学生のほぼ全員が、聴覚をとぎすまして教師に注目していますから、私がくりかえす単純なドイツ文を何回か聞いているうちに、見当がつきはじめる学生が出てきます。何人かは疑問文の構造を見ぬいて、私の問いかけにうまく応じたり、同じ質問を正しく隣の席の仲間に

発したりします。おおげさにほめると笑いが起こり、まちがえると笑いが起こる、私のいちばん好きな時間です。しかしこれが、最近の学生にはどうも逆効果で、学生たちは私と私の講義とを、「くみしやすし」と見てとるようです。

「最終講義」は録音しておこうと思い、学生たちには内緒で小型のテープコーダーに録音を始めたのですが、あまりの私語にカットとなって、3回目の講義でどなりつけました。どなりつけた自分の声を再生してみても不愉快になり、それきり録音は止めました。

自分の声が不愉快になっただけではありません。叱りつけられると、叱った方が呆れるほど萎縮してしまう「大」学生たちのかもし出す雰囲気にも、不愉快になったのです。オレをなめるのはいい、しかし講義をなめるな、と私はよく言うのですが、べつになめてなんぞいないのに、どしたの、という顔つきの「大」学生たちを見ていると、オレもそろそろ骸骨を乞うてよい年齢なんだな、と思わざるをえません。かりに私が不世出の英才で、何十分かの最終講義が畢生の名講義であったとしても、私はそもそも何人の学生たちのために語ることになるのでしょうか。

ともかくこれで、私の講義の声は歴史から消え去ることになりました。しかし、録音を止めてよかったと今は思っています。30年も教職にあれば、少なくとも1万人には手ほどきをしたことになるでしょう。その中には、いま自分がドイツ語に堪能なのは、半田に基礎力を養ってもらったからだ、と思ってくれている学生も一人ぐらいはいるでしょう。彼の脳裏によみがえる私の声の方が、テープの復元する声よりもはるかに私の肉声に近いでしょうから。

録音を止めても「最終講義」であることに変

わりはないのですが、いったん快くはりつめた緊張の糸は、いささか弛緩しました。私はまたいつもの通り、講義が終わると次の講義の準備にかかる、自転車操業の教師に戻ってしまいました。そうして再発見したのは、これこそ私の授業運営だ、ということでした。不十分ながら用意した「最終講義」のシラバスを私は捨ててしまい、その日の成果に次の講義を積み重ね、その日の不備を次の講義で補足する、いわばその日暮らしの半田にもどることにしました。只此の一筋に連なる、と腹をくくりますと、教材の選択と活用に関するアイデアは泉のように(?)湧いてくるものです。すべてが良質の湧き水とはかぎりませんが。

それでも、今なおありありと思い出せるクラスがいくつかあります。外国語が好きでたまらない、未知のものに触れるのが楽しくてしょうがない、教師とやりとりするのが面白くてしょうがない、そういう学生が数人いてクラスの雰囲気を方向づけている、そうして「その他大勢」は、この数人が発散するオーラに動かされて自分を錯覚し、こころよい錯覚の中に安住しながら、授業を生き生きと体験している、そういうクラスです。

毎年春、そういうクラスの出現を待ちながら、自分なりのシラバスを思いえがいて、いつの間にか37年経ってしまいました。南宋のある皇帝が、科挙の合格者の中に73才の老人を見つけ、妻帯する余裕もなかった精励ぶりに同情して、美しい宮女を妻として下賜したとき、これをからかって「新妻に年を聞かれたら、五十年前二十三!」という唄がはやったそうです。さほど精励もせず、ちゃんと妻帯して子も育てましたが、心中を去来するのは、やはり四十年前二十三!の想いです。(1998. 1. 7.)





## 全学教育科目担当の思い出

国際文化研究科教授 小川 陽 一

1979年から今年度まで、一般教育科目・全学教育科目を担当した。その19年間で担当授業科目の名称は「漢文」「中国の文化と思想」「言語表現と文化」と変わったが、教養教育科目であることに変わりはなかつた。

全学教育科目（もと教養科目）は、幅広い視野と柔軟な思考の涵養を目指して、新制大学の教育の基本にすえられ重視されてきた。そしてその在り方については、東北・北海道地区規模の研究会等でも研究が重ねられたなどして、改善がはかられてきた。しかし、この専門教育科目とは異なる科目のもつ理念・目的の実現は、多くの担当者を悩ませてきたことであろう。そしてそれは、今も変わらないであろう。その理念と目的が、“言うはやすく行なうはかたい”からである。かくいう私も悩み続けたひとりであった。

授業科目の名称は上記のごとく変わったが、私の守備範囲は中国文学、とくに中国の小説であった。その分野で全学教育の理念・目的の実現が求められるのだが、多様な学部の多様な関

心の学生諸君の心を捉えるためには、それに応じた授業の多様な内容と方法が求められた。文学部の学生と工学部の学生とでは、アンテナが異なっていて、同じ発信でも、受信結果が異なってしまう。だから同じ授業科目でも、中身もやりかたも、一様では効果があがらない。それぞれに工夫が必要であった。学生がなにを求めている、それにどう対応すればよいのかという判断は、教育者に求められる当たり前のことなのだが、当たり前のことが一番むづかしい。

学生個々人の要求に対応しようとするのは困難だとしても、学部単位での対応は可能であろう。全学教育科目の種類・内容・方向性・ねらい等に対する各学部の期待・要望が示されれば、対応はある程度しやすくなるであろう。そして担当者の個人的判断だけに頼るよりも、効果と意義は大きくなるであろう。大学教育研究センターが窓口になって、取り纏めをするなどしていただけないものであろうか。

以上、思い出に併せて、要望を記させていだいた。



## 教養部で過ごしてきて今思うこと

情報科学研究科教授 細谷 昂

明けて昨年になってしまいました。私の定年退官を記念して、52L-3組の諸君がコンパを開いてくれました。なつかしい顔々、それに厚情が心にしみて、涙がでるほどうれしい一夜でした。その時ある一人が、昔クラス・コンパの時先生が「このクラスの仲間たちが10年たってまた集まれるかな」と語ったのが印象に残っていた、といってくれました。むろん、私はそんなことは忘れていました。

私はわりに「コンパ教師」でした。クラス担任になると、最初の顔合わせの時に、最初だけ天下りでやるからと宣言してクラス・コンパの幹事を任命するのが常でした。仙台出身の学生に割り当てるのです。むろん2回目以降は自主性にまかせましたが、そうすると、2回、3回と、そのクラスでは教養部時代を通じてコンパが続くことが多かったようです。別なクラスですが、あの「大量留年」の結果になった期末試験ポイコットの時、ひるま検問に立っている私をさんざんののしった学生たちが、夜になると三々五々わが家にやってきて、酒を酌み交わしたこともありました。そういうときは、不思議なのですが「両派」とも仲良く(?)やってくるのです。

\*

教養部で教員をつとめて、なんといっても最大の喜びは、フレッシュな1年生と出会うことができるという点だったと思います。毎年、1年生の授業の教壇に立つときは、こちらも何か新鮮な気持で授業をおこなうことができました。

しかし、学生たちの顔の新鮮な輝きを持続することは、率直に言ってかなり困難でした。その理由は、複雑だったと思います。その責任の一端は、むろん私たち教員が担わなければならないのでしょう。しかし、たしかに制度の問題もありました。かなりはっきりしていたのは、1年生たちがやがて教養部を「大学」とみなさなくなるということです。つまり、本当の「大学」は、あるいは大学の学問は、教養部を終わった後の「学部」にある、と考えるようになるのです。教養部は、そこにたどりつくまでのたんなる通過駅と意識されるのです。われわれ教員からみると、いつも入り口のお世話ばかりで、出口、つまり卒業に立ち会えないという淋しさがありました。

そのような意味では、東北大学が教養部を解体して、4年一貫の教育体制をつくったのは当然だったと思います。制度はそのようになりました。しかし、この制度がその趣旨通りに生かされてゆくかどうかは、これからだと思います。いま全学教育科目の見直しが進められていると聞きますが、発足以来5年たったのですからその時期なのでしょう。東北大学の全部局の、とくに学部学生を担当している各学部の先生方が、全学教育科目を大切に育ててほしいと思います。

\*

研究面では、私のようにフィールドをやる人間にとっては、教養部はそのための研究組織ができにくいという点で必ずしも有利な場所ではありませんでした。ただ私個人は、文学部社会

学研究室との交流のおかげで、そのマイナスはカバーできました。しかしそれだけではなく、教養部にいたことでの学問的なプラスもあったと思っています。それは、1年生に教えるのですから、あまり特殊な専門だけではいけないので、社会学あるいはその関連分野を広く見渡す必要があったこと、しかもそれをやさしく説明するために、自分でもそのくらいまで咀嚼して理解しなければならなかったことです。

この必要性は、私に、広く見渡し、大筋をつかむ、という訓練をさせてくれたと思います。まさに、専門閉塞を避けるという一般教育の理念の通りに、教師であった私も勉強したわけで

す。これは、私の専門の特殊テーマの研究を広い文脈に位置づけて見通しをあたえてくれるとか、あるいはいろいろと専門のせまい範囲からはでてきにくいアイデアをあたえてくれるなどの点で、研究面でもたしかにプラスでした。

しかし現在は、原則として東北大学の全教員が全学教育科目にも従事しているわけで、その教育としての重要性だけでなく、研究面でも生かしようによっては貴重なものになるという点を理解して下さって、繰り返しになりますが、全学教育科目を大切に育てていってほしいと思うのです。



## 「むんっん語り」の弁

情報科学研究科教授 望 月 望

これは何も最近に限ったことではないが、学生諸君の答案（数学）を読んでいて気になることがある。例えば、「 $A=B$ の成立には、 $a=b$ 。」などを書く。求めるものが $a=b$ であっても、私としては0点を進呈したいところだ。この文章は何も言っていない。というより、文章になっていない。この文脈では、「 $A=B$ の成立には、 $a=b$ が必要である。」か、又は「 $A=B$ の成立には、 $a=b$ が十分である。」とすればまあいいだろう。通常の問題では、答えは大体必要十分であることが多いから、結果として「 $a=b$ 」だけでよいことになるだろうが論理的には違う。安易に述語を省略していると、大切なことが分からなくなる。述語によって内容の表現が完結することになるから、その有る無しは大問題である。このことは、教師や新聞

・TV関係者などが真剣に考えるべきことだろう。しかるに、今や到る所でこの述語省略が幅をきかせているのである。

この現象は、確かなことは分からないが、3人のオバサン女性（も変だが）を中心とした或るにぎやかなTV番組から生じたような気がする。そこでは主人公達が盛んに「ーかも。」という言い方を連発していたのである。

私が小・中学生時代を過ごした田舎では言葉遣いが大層乱暴で、「やい、おめえ」などというのが子供同志の普通の言い方だった（今は知らない）。そのため、町の高校に行くようになってから随分と苦労した。何しろ、まわりでは「ネエ、君」などと言う。とても恥ずかしくて言えやしない。密かに会話の練習をしたものである。いろいろ気にすると旨くしゃべれないし、

また外国語の修得にもよくない様だ。ともかく、言葉というものに対して私が非常に（或いは異常に）敏感になったのは、こんなところに一因があるのかもしれない。

20年程も前のことだろうか、或る事件で或る人物が国会に喚問されたとき、「記憶にございません。」とやった。その言い方には驚いた。これは、「記憶（が）ありません。」が普通だろう。ところが、あつという間にこれが流行するに及んで更に驚いた。俄然興味を覚えて観察すると、こういうことは後をたたく、ただ呆れるばかりである。私は我が強いせいか、自分の感じに合わないとまず「変だ」と思うのだが、世の中ではすぐ真似するらしい。まさに猿真似的現象である。

ついでにもう一つ言えば、世間ではカタカナ言葉を使うのに躍起になっているようだ。日本人は日本語を使うと馬鹿で、英語（のようなもの）を使うと偉いのである。だが事実は逆で、結果的に自分を貶めているにすぎない。黒い髪をいくら金髪に染めても、決して「ジェニー」にはなれないのである。

世の中のことが気に食わずいつもブツブツと

文句ばかり「語って」いるジイサンを、「むんつんかたり」と言うのだそうで、仙台育ちの家人に教えられた。私がまさにそうだと言うのである。それを聞いて、私はなんとも嬉しくなった。40年以上住んでいて仙台弁なるものは好きになれないが、これはすっかり気にいった。

言葉などというものは常に変わるもので、些細な現象をあげつらうとしたらそれは愚かなことだろう。だが、いろいろな意味でつい語りたくなるのが現状である。日本人には日本語があり、それには独自のよさがある筈だ。萬葉集の一首をロズさめば、誰だって懐かしい気持になるだろう。アーサー・ウェイリーが「源氏物語」を翻訳したとき、直ちにこれは世界最高の文学の一つだとの評価を得た。ハイクは今や世界のものとなりつつある。私たちは固有の言語を、出来るだけ豊かにまた格調高く保つよう努力すべきではないのか？

こんな繰り言を連ねてはきりもないが、この辺で、世に「むんつん語り」の多からんことを願いつつ筆をおこう。

(以上)

## 「曙光」の由来について

曙光とは、朝の太陽の光であることは、説明は不要であろう。

ドイツの哲学者フリードリッヒ・ニーチェは、キルケゴールと共に虚無主義者と呼ばれる。然し、私は彼等を虚無主義と呼ぶのは誤っていると考えている。原本を読まれば直ちに判ることであるから此処には書かない。ニーチェであれば「ツアラツウストラはこう語った」あたりが分り易いと思う。

人間は妄執にとり巻かれている。今日の妄執の第一は偏差値であろう。諸君らの憎き偏差値は、君らの能力を示していない。例えば、岩波新書「天才」宮城音彌先生著を読みたい。他にも類書は数多くある。

君らの周辺に信ずべきものがあるのか。次から次へとニーチェは粉碎してしまう。もうやめてくれと云ってしまう程、何でも打ち壊す。考える輩はつよい。何でも突き破る。これがニーチェの著曙光である。然し、或る日、遂に壊れないものを見出す。そしてツアラツウストラ、つまり、君は、意気揚々と山を降りて里に向う。その君を照らすのが曙光である。若い君の力を輝かすように太陽はやさしい美しい光を君に注ぐのだ。

諸君、壊れるものをすべて壊し、本当に壊れないものを君の心の中に把め、それも、すぐ壊れてしまう。それが壊れたらすぐまた、本当に壊れないものを夢中になって把め、そして、本当に曙光を浴びる強い、あるいは、たをやかなる若人になれ。

(命名及び表紙題字) 前東北大学総長 西 澤 潤 一

## 大学教育研究センターの紹介

東北大学では平成5年4月から新カリキュラムに則った教育が行われます。すなわち、これまでの一般教育科目及び専門教育科目の区分を見直して、教育内容に応じて「全学教育科目」と「専門教育科目」に改編し、できるだけ4年ないし6年の一貫したカリキュラムを目指すと共に、カリキュラムの選択に多様性をもたらすなどの目的から semester 制を採用しました。またこれまでの教養部制度を廃止し、一年生は入学当初から各学部にも所属することとなりました。

「全学教育科目」は全学の教官が協力して担当することとなり、その効果は教育を活性化し、教育の多様化をもたらすものと期待されています。近年の、急激な科学技術の発展、学術研究の高度化・細分化、社会の変化、国際化の進展等に伴い、大学教育のあり方も絶えず問われています。したがって、大学の特色あるカリキュラムを時代の要請に応えつつ編成するには、大学教育に関する不断の情報収集と分析、その成果のカリキュラムへの反映が求められています。

大学教育研究センターは、この要請に対応して(1)全学教育科目の企画・実施組織(2)大学教育に関する研究組織、の二面性を保有する学内共同教育研究施設と位置づけられています。

同センターでは「全学教育科目」を開講しています。その新カリキュラムの理念としては(1)狭い専門領域に捉われない広い視野と柔軟な思考力を養う役割(2)専門教育のための基礎的素養を養う役割(3)大学教育のイニシエーションの役割、を挙げることができ、具体的には、「転換教育科目」、「教養教育科目」、「基礎教育科目」、

「外国語教育科目」、「保健体育教育科目」にそれぞれ反映されています。

以下に、それぞれについて説明します。

○転換教育科目は、上記理念の(3)の役割を大きく取り入れた科目です。すなわち、新入生の期待と意気込みに応え、学習意欲を高め持続させるために必要な情報の提供と、これらの大学生活に向けての意識改革を促すための教育なのです。

この科目は、次の2つに分けられて、主に1年次学生を対象にして実施されます。

(1) 転換教育科目A：学部ごとに、所属学生を対象に開設する授業科目です。

「文化人類学入門」、「教育の現在」、「経済学入門」、「現代数学入門」、「肉眼解剖学及び実習」、「歯の解剖学」、「薬学セミナー」、「創造工学」、「現代における農と農学」などがあります。

(2) 転換教育科目B：学部にかかわらず、所属学生以外をも対象に開設する少人数の授業科目です。

「行動科学の考え方」、「くらしと技術」、「社会への視座」、「欧米文学理論」、「インド学入門」、「行動科学の考え方」、「ヨーロッパの歴史と現代」などがあります。

○教養教育科目は、上記理念の(1)の役割を取り入れた科目です。すなわち、人文、社会、自然科学の諸領域の思考方法などを幅広く学ぶことによって、専門に捉われない広い視野と柔軟な思考力を養うための教育として位置づけられます。

この科目は、次の5つのカテゴリーに分けられています。

## (1) 複数文化と国際事情

「英米文化論」、「言語文化論」、「日本語特論」

## (2) 言語・思想・歴史の探究

「言語表現と文化」、「論理の世界」、「思想の世界」、「歴史と文化」、「サンスクリット語」、「ギリシア語」、「ラテン語」、「アラビア語」

## (3) 人間と社会の科学

「心の科学」、「芸術の世界」、「宗教の科学」、「文化人類学」、「社会の科学」、「地域と環境」、「日本国憲法」

## (4) 自然の理解と分析

「数学の世界」、「社会の数理」、「物理学の進歩」、「フロンティア物理学」、「物質の科学」、「環境と生活の化学」、「バイオサイエンス」、「宇宙の科学」、「地球環境科学」、「情報処理概論」

## (5) 総合科目

「世界の民族と文化交流」、「バイオと環境」、「経済・経営の基礎知識」、「くすりの科学」、「コンピュータが創る世界」

なお、このほかに、外国人留学生のための教養教育科目として「日本事情」が開設されています。

○基礎教育科目は、上記理念の(2)の役割を取り入れた科目です。すなわち、専門教育科目の学習に直結する科目及びこれと隣接する科目として位置づけ開設されています。

## (1) 数 学

「数学」、「数理統計学」、「解析学」、「線形代数学」、「離散数学」、「数学物理学演習」

## (2) 物 理 学

「物理学」、「物理学特論」、「天文学」、「地球惑星物理学」、「物理学実験」

## (3) 化 学

「化学」、「化学実験」

## (4) 生 物 学

「生物科学」、「生物科学実験」

## (5) 地 学

「地圏環境科学」、「地理学」、「地球物質科学」、「地学実験」

## (6) 情 報 報

「情報処理概論」、「情報処理演習」

## (7) 人 文 社 会

「経済書講読」

○外国語教育科目は、外国語の読み、書き、話し、聞くという4要素について、既に習得した外国語の能力を高めること、初めて学ぶ外国語の基礎を身に着けること、及び外国語の学習を通じて外国文化に接し、それによって外国文化を理解する能力を高めることを目的として開設されています。

科目として、以下のものが開設されています。

(1)英語(2)ドイツ語(3)フランス語(4)ロシア語(5)スペイン語(6)中国語(7)朝鮮語

なお、このほかに、外国人留学生のための外国語教育科目として「日本語」が開設されています。

○保健体育教育科目は、スポーツ実技による健康な身体を造るだけでなく、運動理論、健康教育、更には文化的な要素を含む広がりのある教育を行います。

開設する科目は、次のとおりです。

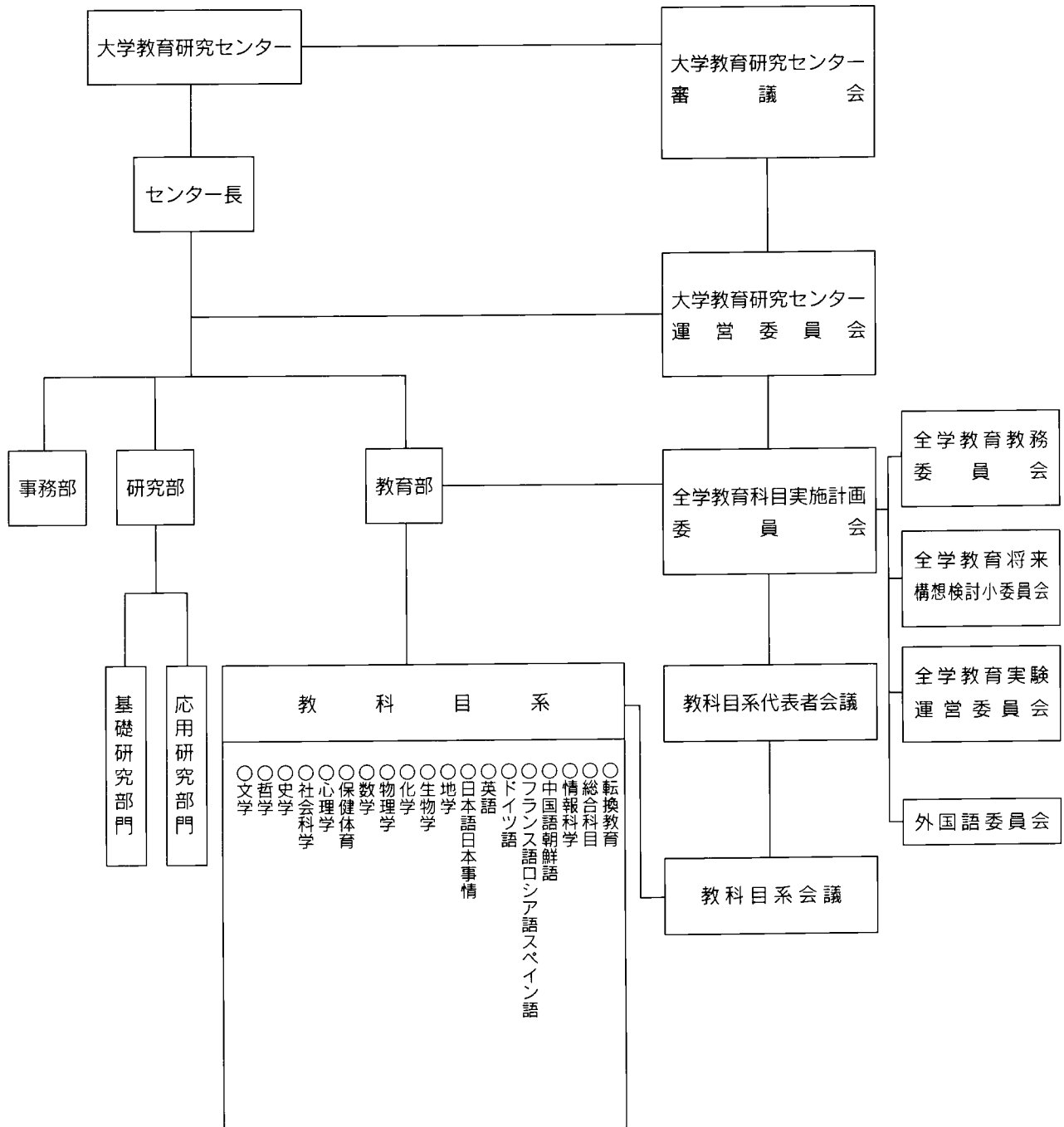
「スポーツの科学」、「身体の文化と科学」

○資格取得のための科目は、教員免許状取得のために、次のものを開設しています。

「教育原理」、「教育心理学」、「人間関係論」、「相談心理学」

以下に、大学教育研究センターの組織図を示す。

大学教育研究センター組織図



## 新入生に贈る未解決問題：情報通信倫理

情報処理教育センター 教授 静 谷 啓 樹

情報通信倫理とは言ってみたものの、実はそのようなものは存在しないのかもしれない。どうやら倫理のみが漠然と存在するのであって、情報通信倫理とは、計算機やネットワークという環境に整合するように、倫理の諸概念を符号化したものと考えられます。むしろ、そのような符号化が現代社会に必要とされているそのことにこそ、皆さんがこれから解くべき重要な問題点が内包されていると考えてよいでしょう。

情報処理教育センターでは、自明なことを大きな声で言うような照れ臭いことをするつもりもないのですが、すべての利用者に次のようなメッセージを伝えています。もちろん、皆さんも利用者です。情報通信倫理がなぜ必要とされているのかが、行間に読み取れるよう配慮したつもりです。万人に共通の統一的な行動規範を提示しているようにも読めるかもしれませんが、残念ながらそれはある意味で真実です。そのような規範は病的な社会状況に付随することが多く、個人の多様性を尊重する私たちの社会の合意と対立します。したがって反発されても仕方のないことです。しかしながらそれでもなお、このようなメッセージを事前に利用者に伝えなければ皆が何となく安心できない現代の情報化社会について、一段高い視座から、最後に深く考えてみてください。

### 1. 「法の遵守」を常に意識してください

- ネットワークを含む計算機上の世界は、情緒的な意味で仮想現実世界と思えることはあっても、法律の及ぶ現実世界です。法律で禁止・制限されている行為を行うことはできません。ネットワークを通じて国外に

接続した場合は、相手国の法律も遵守してください。

- 情報処理教育センター利用者には「東北大学情報処理教育センター利用規程」（昭和57年規第15号）も適用されます。その第6条では、利用の許可を受けた目的以外に利用することや、自分の利用者番号を他の者に使用させることを禁止しております。
- 教育用計算機システムの運用をソフト的・ハード的に妨害する行為、妨害の意図はないまでも他の利用者の迷惑になる行為、あるいは他の利用者に迷惑をかけないまでも、営利目的のプログラム開発環境として利用する行為等があった場合は、上記規程第8条の規定により、利用の許可を取り消すことがあります。

### 2. 「セキュリティ」を常に意識してください

- パスワードやファイルの読み書き許可設定等は、セキュリティのための仕組みです。自分のパスワードを書いた紙を放置したり、秘密のファイルにもかかわらず他人が読み書きできる設定にしまったりすると、思いがけない結果になることがあります。また、電子メールに重大な秘密事項や自分の銀行口座番号・クレジットカード番号等を書くのも危険です。
- 逆に、セキュリティ破りの行為をしてはいけないのは言うまでもありません。施錠された他人の家に入り込むのは明確なセキュリティ破りですが、たとえ施錠されていない家に入ったとしても、その家に立ち入ってよいことにはなりません。



## 学生からの投稿



## 全学教育科目の授業を受けて

文学部4年生 芦田麻里

東北大学文学部に入学してから一年間、私は他学部の学生と共に、全学教育を受けてきたわけですが、私にとってのこの一年は、非常に貴重な体験をした一年でした。どの様な点で貴重だったのかと言うと、具体的にその成果などが目に見えて分かる、というわけではありませんが、様々なジャンルに及んだ講義内容からは、学問が実に多様性に富んでいることや、その奥の深さを感じさせられると同時に、自ら探究心を持ってそれらに取り組んでいくことの面白さを教わることができた、という点においてです。

特に、当時の私は自分がこの先何を専門として学んでいくのかを、はっきりと決め兼ねていたので、比較的自由に自分の思考に合わせた科目選択のできる全学教育の受講システムには、本当に感謝しています。そして実際に、私がドイツ文学科へ進むことを決意したのには、全学教育の第二外国語でドイツ語を履修していたことが、大きく影響しているのです。同じように私以外にも、全学教育が何らかの形で後々の進路決定を左右する要因となった学生は、少なくないはずです。つまり、この全学教育を受講できる一年間というのは、私たちが二年次以降、専門的学問研究へ携わっていく前の、準備期間であるとも言え換えられると思います。

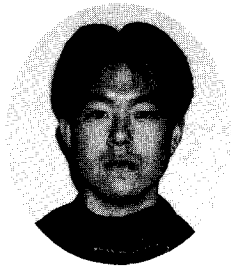
しかも、その種類の豊富さ故に、過去には学ばなかった心理学や社会科学などの分野をのぞかせてもらったり、文学部に居なが

ら理系科目の生物学やコンピュータを使用した情報処理の授業に参加できたことで幅広い知識を身に付けることが可能となり、本当にいい経験になりました。

更に、全学教育が優れていると思うのには、それぞれの講義が、内容的にはどれも専門的であるのにも関わらず、私達生徒にとっては、教養科目の一つであるという事を、先生方も考慮の上で授業をして下さるので、誰でも気軽に受講できる良さがある、という事が挙げられます。しかし、このような状況のもとでは、どうしても学生が受け身の姿勢になってしまいがち、というのも事実ですが、大切なのは私達学生の学ぼうとする意欲であって、裏を返せば、こうした環境の中でこそ、私達の自主性が養われることになる、とも言えます。

文学や歴史に関するものを始めとして、語学演習や体育実習、教職免許取得を目指す学生の為の教育に関する科目、そしてその他にも実に広範囲に渡っている全学教育の授業は、私達の好奇心を駆り立て、物事に対する新しい見解を与え、見過ごしてしまっていた可能性を発見する格好の場となってくれるのです。

私はこの一年を通して身に付けた事柄を、単なる過程として終わらせてしまうことなく、これから先の学生生活において、自分自身を更に発展させていく為の原動力として、最大限に活用していけたら、と思っています。



## 向学心から緊張感が作られる場に

教育学部4年生 渋谷 晃太

目の前には真新しいノートと筆記用具が並んでいた。大学に入って初めての全学教育科目の授業の教室は、ある種の緊張感に満ちていた。

しかしながら、その後、その緊張感はなくなり、どこか注意力散漫な、だれた空気が常に教室には漂うことになる。

大学は自ら学ぼうとする場である、という理念は十分に理解していたし、自分に興味があるもの、ないものに関わらず教養を身につけようと様々な全学教育科目の授業を履修した。向学心は十分にあった。だが、緊張感というものが生まれてこず、そのためどこか集中できない。周りの誰もがそうだったわけではないが、大半がそうだったのではないだろうか。その空気が教室に充満し、緊張感のない場を作り出していた。緊張感のない授業の場は、身につくものもまた少ない。ではなぜ、全学教育の授業の場は緊張感が生まれてこないのだろうか。

考えられる理由はいくつかある。まず、最も大きいのが中学・高校の頃の受験というような大きな目標がないことがあると思われる。確かに大学という場は中学・高校とは意味合いが違う。自ら学ぶこと自体が大きな目標なのではあるが、先が見えないというのはどうしても苦しいものである。そのため、どうしても単位のため、という手近な目標を置いてしまい、これならまあ、と気持ちが緩んでしまう。よって別に真剣に取り組まなくとも、という気持ちが生まれ、緊張感がなくなってしまう。

また、大学側の事情もあるだろうが、大教室の多人数授業というものも、緊張感を生み出しにくい環境であると私は考える。どうしても受け身の態勢で授業を受けることになり、緊張感も緩んでくる。これは我々生徒の側にも確かに問題はあがるが、もう少し少人数で、ディベートなど積極的に授業に参加できる環境を作ることには、緊張感を生み出すためにも必要なことではないだろうか。

最後に、全学教育というところでどうしてもこれまでの一般教養のイメージが残り、どこか軽んじられるところがある。これは我が大学に限ったことではなく日本人全体のイメージとして固定化しているところがあるように思われる。私にとっては全学教育の意義は大きかっただけに、解決されねばならない大きな問題であろう。

誰もがより高度な学問を身につけたいと願って大学の門をくぐる。向学心に満たされている。その向学心を最初にぶつけるのが、全学教育科目であるのだから、その場は向学心が緊張感を生み出す場でなくてはならないであろう。そのためには我々学生の側の意識の問題と、大学側の環境整備の問題からの双方による努力が当然のことながら必要となってくる。私が2年の時の仏語の授業はものすごい緊張感があり、一瞬足りとも気が抜けなかった。大変ではあったが、向学心に燃え、とても充実していた。あの充実感が全ての全学教育の場にもたらされることを願いたい。



## 全学教育を受講して

理学部4年生 大下内 伸

新しい事を始める際には、地図のようなものがあれば便利なものです。そういう意味で全学教育は専門教育を受ける上でも、広く学問を学ぶ上でも地図となり得ると思います。高校時代は大学入試に集中せざるを得ないため、学ぶ内容もそれを意識した範囲に限られてしまいます。そうした状況で我慢を強いられていた知識欲を満たす場として、本大学における全学教育が用意されているものと期待していましたが、実際に体験して感じたのは、「もの足りなさ」でした。知識欲や好奇心をかき立てられ、耳を傾け学ぶ事というのは楽しく、そこで学ぶ事は記憶に残りやすいものです。また、高校や予備校を出たての新生生にとっての教養教育科目は、入試科目の範囲にはない新鮮で興味を惹くもので、そういった意味で、教官には入門者に対する教育であるということを理解して戴きたいと思うのです。何事も第一歩目は大事で、そこで好奇心を持続あるいは増幅させれば、その授業が契機となり、関心が高まったり、疑問が解けたりすることが往々にしてあると思うのです。そのようなあり方こそ全学教育の目的であり、このような授業によって専門的知識に加え、広い教養、幾種もの思考回路を持つ人が増えることになるのではないのでしょうか。

学部によっても異なりますが、カリキュラム

に関しては必修科目が減ったとはいえ、選択科目も実質的には取得しなければならない（選択しにくい）状況にあります。また、個々人の興味の対象は異なり、当然全学教育では網羅しきれない分野もできますし、そういうものは授業以外に求めざるを得ないことになります。特定の学部に入學したとはいえ、人には寄り道も必要です。広い教養、幾種もの思考回路を持つことによって、寄り道が行き詰まった時の打開策を生むことになったり、場合によっては本線になったりする可能性もあると思うのです。そういう意味で選択科目を実質的なものに変える必要があるのではないのでしょうか。

これを読む新生生の方々は誤解しないで下さい。全学教育はもの足りない授業ばかりではありません。個々人の興味にもよりますが、斬新な授業をする教官もいますし、各教官方は、その分野きっての達人です。疑問を投げかければ、答が返ってくるでしょうし、議論にも応じてくれるでしょう。

物事には正負両方の作用がありますが、総じて、全学教育は正の作用があると思います。新生生にとって全学教育が専門教育への良い地図となるよう、さらなる改善がなされることを期待しています。



## 全学教育に対する感想

薬学部4年生 ダーナ ブランゼイ

私は現在薬学部の4年生ですが、常々思うのは、専門の授業が余りに忙しいということです。本格的な専門は3年（または2年の4セメ）から始まるのですが、その過密さは尋常でなく、全て完璧に理解しようとしたらとても時間が足りません。原因は、授業数が多過ぎることにあるのです。

そこで、まず1年生のときの全学教育科目を減らして、専門科目を1年から始めてほしいと思います。今のシステムでは、1年のときあまり重要でない教養科目を勉強して、まあ忙しくないのですが、3年から大切な専門科目を、上のようにこなしていかななくてはならないので、合理的ではないと思います。

1年生から専門の授業を始めれば、その分3年生の負担が軽くなって、余裕を持って勉強できるし、またそのときに興味を持っている科目に今よりもっと時間を割くことができます。それに入学するときには薬学に興味をもって入ってくるので、早い時期から専門にふれさせた方がいいのではないのでしょうか。

次に、学部の実験を2年生から始めて欲しいと思います。その方が後でゆとりができるし、大切な実験の技術と考え方を早い時期から、より深く、身に付けることができます。

以上は、専門についてですが、全学教育科目に関しては、まず数学や物理の授業を少なくして欲しいです。特に数学の知識は高等学校レベルで十分だと思いますし、物理に関しては後で専門の物理の授業がありますので全学教育の科目をもっと少なくしても構わないのではないのでしょうか。

次に、文学や宗教や社会学などの文系科目ですが、正直に言ってあまり面白い授業はなかったと思います。もちろん、いい先生がたくさんいらっしゃるし、興味をもつ学生も少なくないでしょうが、授業そのものはあまり充実していませんでした。

これらの授業は、学生の教養を磨いて狭い専門的知識に閉じこめないためにもともと生まれたのでしょうが、内容は既に失われています。思うに、興味のある学生は自分でいろいろな本を読むし、興味のない生徒に教えようとしても能率的に単位を取ることに、板書だけするかノート借りるかして、テスト前だけ勉強して内容を覚えて忘れることしか考えてないと思われるので、意味はあるのでしょうか。特に現在では全く勉強しなくても、レポート提出かノート持ち込みによって簡単に単位をとれる仕組みが出来上がっており、怠慢が怠慢を呼ぶ始末です。本当の教養が培われるのでしょうか。全くいらないういっただけ過ぎですが、もっと少なくても…と思います。

文系科目の中には本当に面白そうなのもあります。ただ選択に制限があり、必修と重なって履修できないものがありました。たとえ意欲があっても勉強したいことについて勉強できることは限りません。学生の私からみれば、これは問題だと思います。

最後に全体を通じて、専門も教養もですが、試験勉強のための時間が短く感じられました。もっとたくさん勉強できた方がよかったです。大体以上が私の感想です。

## 新入生への窓口案内

新入生の皆さん、これから、川内北キャンパスで修学する2年間、皆さんが事務手続きを行う場所は、国際文化研究科等事務部の教務第一掛、教務第二掛それに経理掛及び学務部の学生第二掛になります。また、保健衛生、修学及び学生生活などの相談窓口として保健管理センター、学生相談所があります。以下に、各窓口での事務手続きの概要を紹介します。

### ○窓口の紹介

- 学生生活関係担当：学生第二掛（管理棟1階、窓口番号1・2・3・4番）
- 履修、授業関係担当：教務第一掛（管理棟2階、窓口番号6・7番＝「理・医・歯・薬・工・農各学部担当」、窓口番号8番＝「文・教育・法・経済各学部担当」）
- 授業料関係担当：経理掛（管理棟2階、窓口番号9番）
- 体育施設関係担当：体育館事務室
- 保健衛生等関係担当：保健管理センター、学生相談所

### ○窓口開設時間

- 「学生生活関係担当」及び「履修、授業関係担当」  
8：45～12：30  
13：30～16：45
- 「授業料関係担当」  
8：45～12：30  
13：30～16：00
- 「保健管理担当」  
9：00～11：30  
13：00～16：15

- 「学生相談担当」

9：00～12：00

13：00～17：00

### ○窓口業務案内

- (1) 学生生活関係担当では、1・2番窓口において「アルバイト紹介」、「アパート紹介（窓口閲覧）」、「学割証、在学証明書、通学証明書交付」「課外活動施設・用具貸出」、「学習室・教室貸出」、「サークル結成・継続届」、「遺失物・拾得物」など。3・4番窓口において「入学料・授業料免除」、「授業料の延・分納」、「奨学生の採用」、「改姓・住所変更などの身上異動届」などを取り扱っております。

窓口業務にあたり皆さんへの連絡、情報などの伝達は、学生第二掛掲示板で行いますので見落としのないように注意して下さい。

なお、わからないこと、不明な点など遠慮なく窓口にご相談して下さい。電話による場合は学生第二掛217-7816及び217-7818に照会して下さい。

- 学割証・在学証明証の発行について

学生証（IDカード）を使用して管理棟1階廊下に設置してある証明書自動発行機により交付を受けて下さい。学割証の交付は各季・学期末休業直前が大変混み合いますのでできるだけ早めに利用して下さい。特に年末は機械が停止して発行業務ができなくなりますので、十分注意して下さい。

なお、有効期限は、発行日から3か月間ですので余裕をもって交付を受けてください。

- 課外活動施設、体育施設などの利用について  
使用申し込み、使用時間帯、使用上の注意

事項などについては、『学生生活案内』を参照するほか、各窓口で確認のうえ利用して下さい。

• 遺失物・拾得物について

川内北キャンパス構内での拾得物は、学生第二掛のショールームに保管しております。財布や学生証など拾得物が大変増えております。持ち物には氏名、学籍番号などを明記するようにしましょう。

• 身上の異動届について

本人並びに保証人の住所変更、戸籍上の変更などがありましたら、直ちに届け出をして下さい。連絡先の変更についても万一の場合に備え届け出をして下さい。

• 授業料の免除及び延・分納について

手続きの詳細などは『学生生活案内』を参照するとともに『授業料免除の説明会』に出席して願書などの交付を受けて下さい。出願は前期分と後期分の年2回に分けて行われます。

授業料の免除の他に、授業料を期限までに納付できない場合の延納、分納の制度もありますので窓口で照会して下さい。

• 日本育英会などの奨学生について

日本育英会による奨学金の貸与の他、地方公共団体や民間奨学団体による奨学金の貸与や給与の制度があります。

日本育英会の出願希望者は『出願説明会』に出席し願書などの交付を受けて下さい。出願の時期などは、『学生生活案内』を参照し、不明な点は窓口で照会し、出願の時期を逸さないように注意して下さい。高校予約採用候補の方は、入学後速やかに『進学届』を提出して下さい。

その他の団体の奨学金は、提示により連絡します。

• 保健管理・学生相談について

川内北キャンパス内の西側に『保健管理センター』『学生相談所』があります。

『保健管理センター』には、医師と看護婦

等が常駐し皆さんの健康の保持増進を図ることを目的に、定期・随時の健康診断、健康相談と診療、保健一般に関する指導助言、健康相談と診療、保健一般に関する指導助言、応急診療等を行うとともに、疾病の予防と早期発見を目指した積極的な健康管理業務を行っておりますので、気軽に利用して下さい。

また、『学生相談所』では修学上の問題、進路選択や対人関係の悩み等、大学生生活上のあらゆる相談にカウンセラーが応じております。相談にあたってはプライバシーは固く守られますので、気軽に利用して下さい。

(2) 履修、授業関係担当では、「履修関係」、「授業関係（休講・補講・試験）」、「諸証明書の発行」などを行います。

特に、全学教育科目の履修関係については、別途「シラバス」の中で、詳細な説明がしてありますので、省略します。

授業関係その他の情報は、A棟南側の学生向け掲示板にその都度掲示しますので、見落としのないよう日頃から注意して下さい。

(3) 授業料関係担当では、「授業料徴収」を行います。

• 納付期限

前期は4月（1年次学生は、原則として、入学時に）、後期は10月です。

• 納付方法

本学では授業料代行納付方式を採用していますので、概略を説明します。詳しいことは経理掛で尋ねて下さい。

代行納付者の銀行指定口座から引き落とす日は、

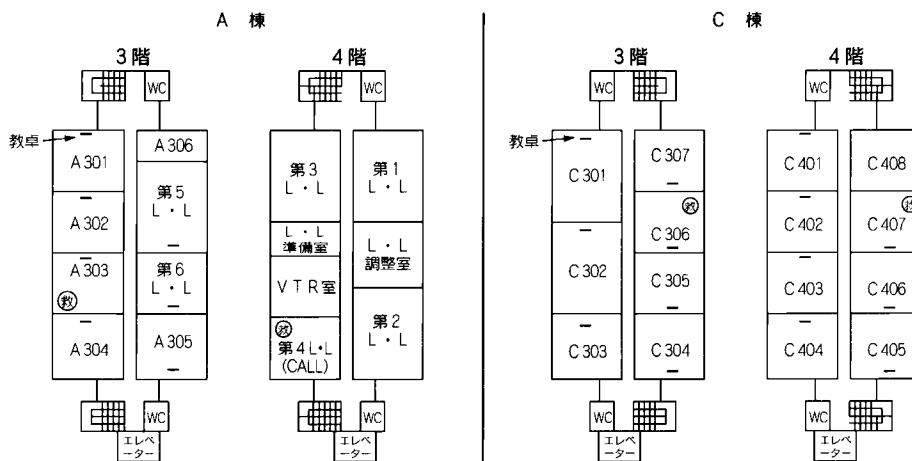
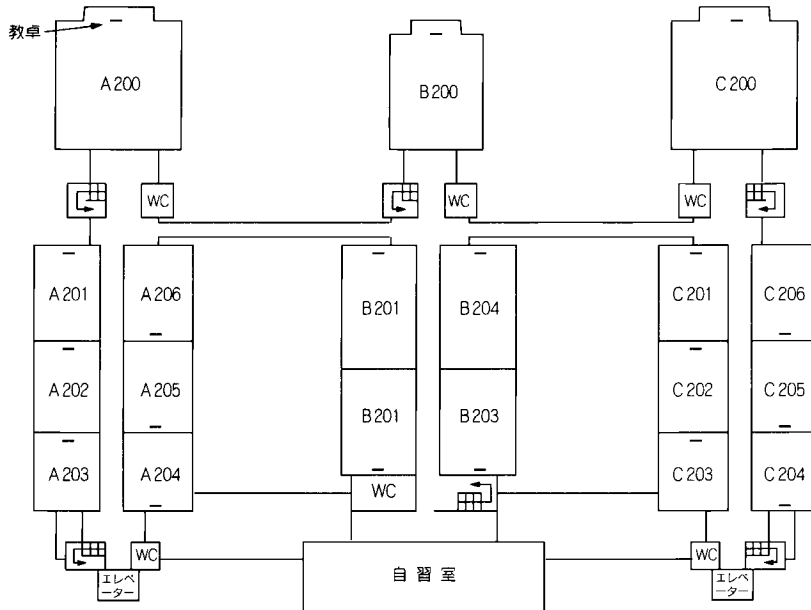
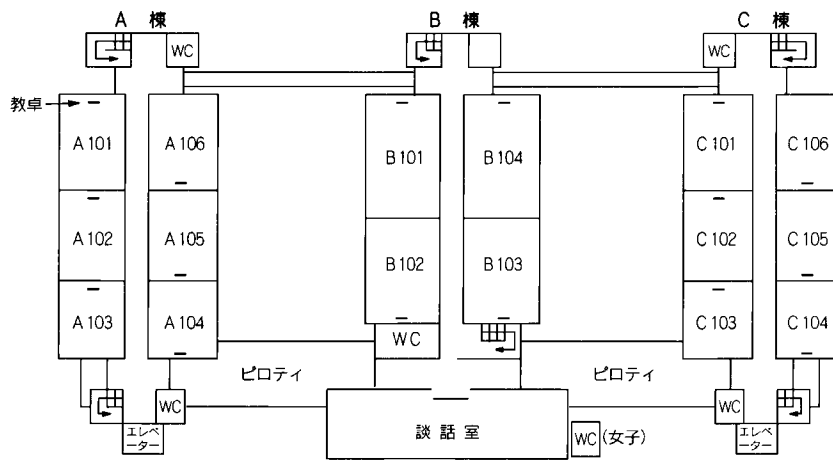
平成10年度前期分 平成10年4月24日

平成10年度後期分 平成10年10月27日

ですから前・後期分とも当該月の20日頃までに預金しておいて下さい。



### 川内北キャンパス教室案内

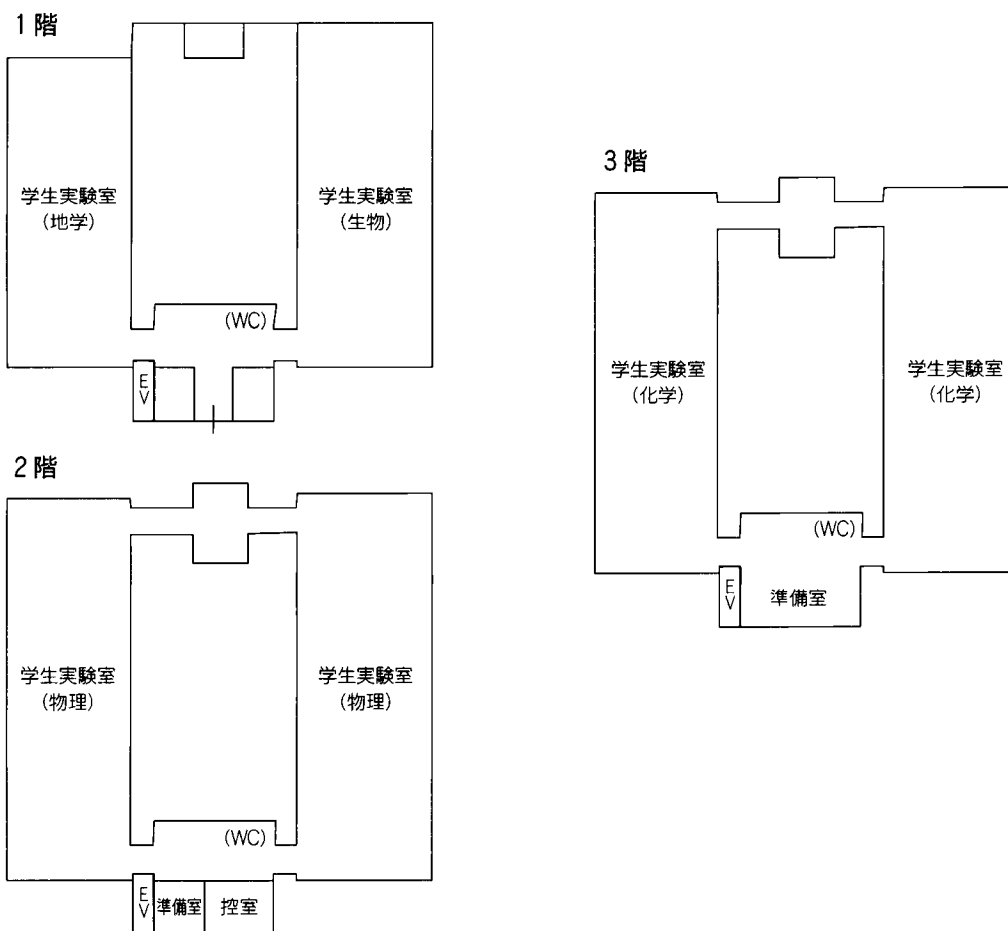


※CALL = Computer-Assisted Language Learningの略称

⊙は救助袋の設置されている場所を示す。

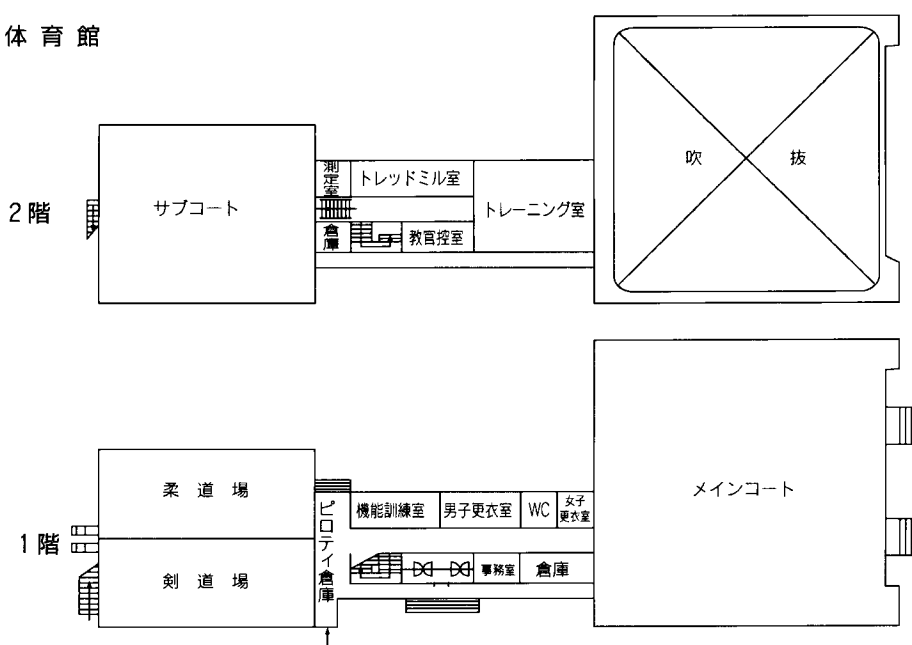


## 学生実験室配置図



E V : 身障者用エレベーター

### 体育館



## 川内北キャンパスの交通規制について

新学期を迎え、構内に不慣れた二輪車（バイク・自転車）による通学者が急増し、構内の通路など禁止場所での駐輪が目につくようになり、構内・外での事故が危惧されます。構内での良好な教育・研究環境および交通安全の確保のため、川内北キャンパスでは次のような交通規制処置を取っています。

なお、学生の自家用自動車通学は、身体障害者または疾病等の理由以外では認めておりません。

新入生においては、交通安全と他人の迷惑とならない交通マナーを心掛けるようにして下さい。

◇南門付近：扇坂・文科系4学部方向から構内への入口

- ① 二輪車で構内を通り抜ける時は徐行スピードで、厚生会館南側から利用できます。
- ② 二輪車は、管理棟隣および南門西側のD駐輪場等を利用して下さい。
- ③ 構内南側の駐輪場は、収容台数が絶対的に不足しており、駐輪場はすぐ満車になるので、その場合は上記の通り抜け道路を通過して、C駐輪場で捜して下さい。

◇北門付近：川内郵便局前からの構内への入口

- ① 二輪車で構内を通り抜ける時は、徐行スピードで第二食堂南側、ハンドボールコート、プール脇、課外活動共用施設（川内サークル会館）前を経て、通り抜けて下さい。
- ② 講義棟Cの北側B駐輪場が満車の場合は、学生実験棟北側のA駐輪場や第二食堂あるいは更衣室北側の駐輪場を利用して下さい。
- ③ 第二食堂付近は、生協関係の業者の物品の搬出入などを除いては、一切駐輪・駐車を禁止しています。

◇厚生会館北部付近

通り抜け道路のカーブ付近には、二輪車を放置しないで下さい。混雑の原因になる場合は放置二輪車を移動することもあります。注意して下さい。

◇文科系研究棟・理科系研究棟・学生実験棟付近

文科系研究棟南側の入口と学生実験棟南側の入口を結ぶ道路は、自動車以外は侵入できません。

川内北キャンパスの各駐車場および各駐輪場は、次の図面のとおりです。

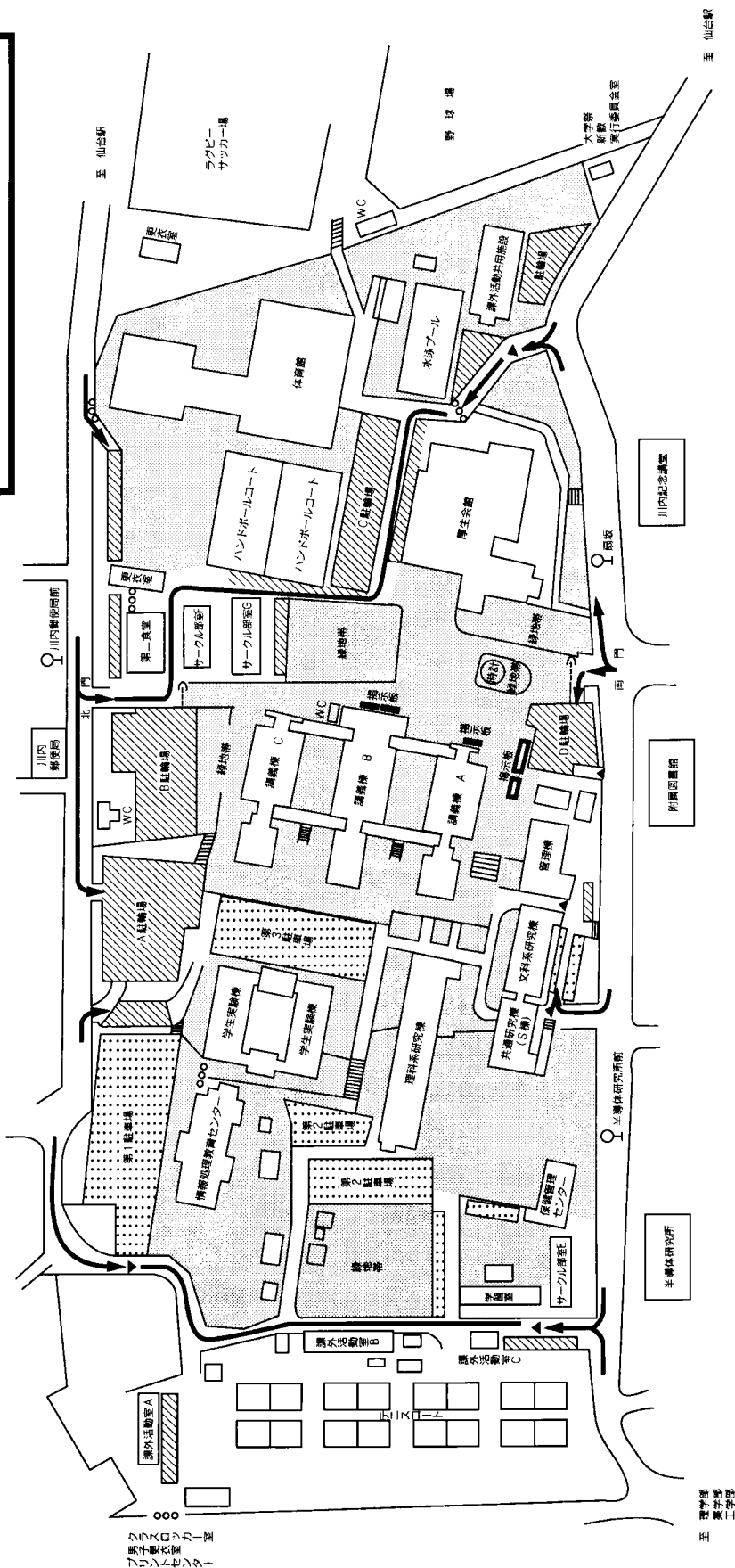
平成10年4月1日現在

# 川内北キャンパス交通規制図

## 自用自動車による 通学の禁止について

キャンパス内の教育・研究環境を維持するため、川内北キャンパス地区においては、学生の自家用自動車通学は身体障害者又は疾病等の理由以外は認められておりません。  
なお、二輪車の通学は可能です。

- |    |                 |   |             |
|----|-----------------|---|-------------|
| 斜線 | バイク 自転車駐輪場      | → | 二輪車進入抑止柵    |
| →  | バイク 自転車通行路      | ○ | 自動車進入防止用ポール |
| ●  | 駐車場             | ▲ | 自動車入口規制     |
| □  | バイク 自転車乗り入れ禁止区域 |   |             |
- 凡 例



至  
工学部  
工学部  
工学部

## 全学教育科目の学生アンケート調査について

大学教育研究センター 関 内 隆

平成9年10月～11月に、全学教育科目に関する学生アンケート調査を行った。その目的は、全学部の1～4年次学生を対象にアンケート調査を行うことによって、全学教育が果たしている役割を点検するとともに、今後見直すべき課題の全体像を把握することにあつた。

今回のアンケート調査を行うに当たって、次の諸点に基本的な視点を据えた。

- (1) 学部一貫教育の中で全学教育科目が占める位置は、学生の所属学部によって多様な様相を示していると思われる。したがって、学部別あるいは文系・理系別学生の意識動向の調査分析を重要な一つの柱とする。
- (2) 全学教育科目を主として受講している1～2年次学生のみならず、主に専門教育を学習している3～4年次生に対する調査も行うことにより、全学教育科目が専門教育との関わりでどのように認識されているかを把握する。このような比較分析に基づいた全学教育科目に関する立体的な点検作業を目標とする。
- (3) この間、平成11年度に向けた全学教育科目の見直し作業が始まり、改善すべき問題点が明らかになりつつある。そうした一定の見直しの方向性を加味した重点的アンケート調査を行う。

アンケート調査は、14の科目群について、授業関心度（授業内容に興味・関心をもつことができたか）、授業理解度（授業の難易度が適切で内容をよく理解できたか）、授業参加体制（履修人数や設備は授業に意欲的に参加できる体制であったか）、授業目標の達成度（各授業科目が掲げる目標を達成し得たか）を中心に、5段階評価の調査を行った。

これに加え、全学教育体制に関する総合的な学生意識調査として、期待する授業科目の傾向、現状の開講科目に対する認識、授業に対する学生の姿勢等を中心に、13の質問を行った。また、自由記述欄を設け、全学教育科目に関する学生からの具体的な要望や意見を聴取する方法をも採用した。

現在、アンケート調査結果の分析検討を行っている段階にあり、近日中に調査報告書として公表する予定である。

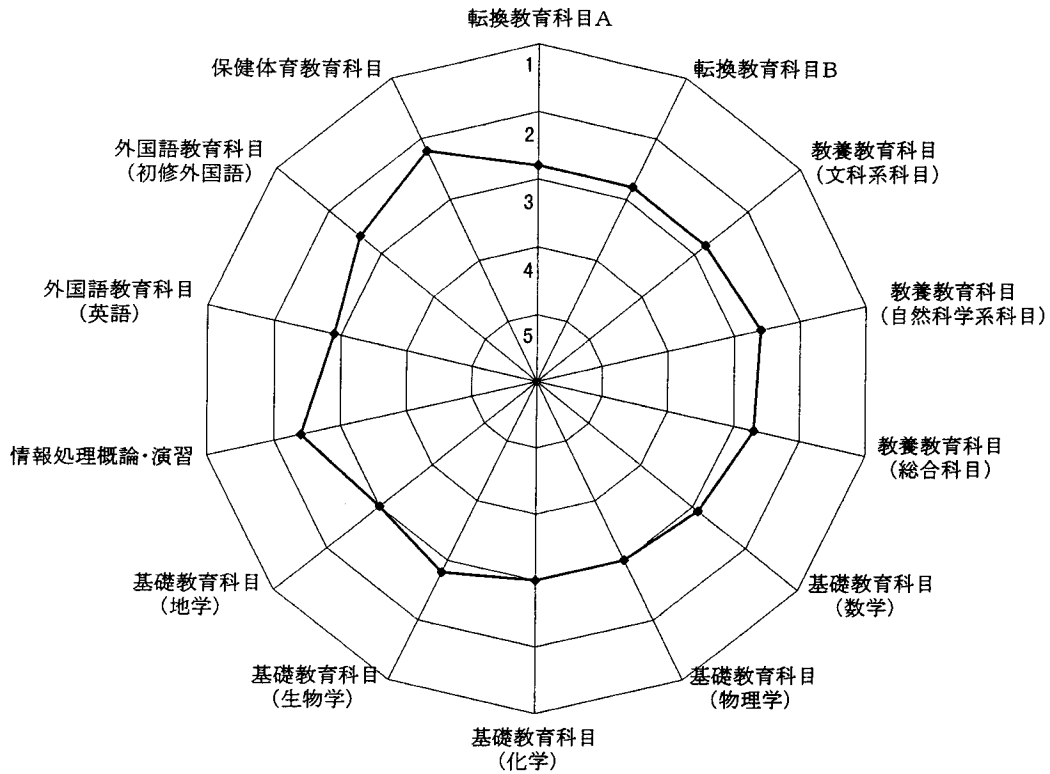
なお、授業関心度、授業理解度、授業参加体制、授業目標の達成度、ならびに全学教育科目全体に関する質問への回答について、学生全体による記入数値の平均値に基づいたグラフを以下に掲げておきたい。因みに、グラフ上の数値は、1に近づくにつれて肯定的回答を意味し、5に近づくにつれて否定的回答を意味する。

## 全学教育科目に関する学生アンケート

授業関心度

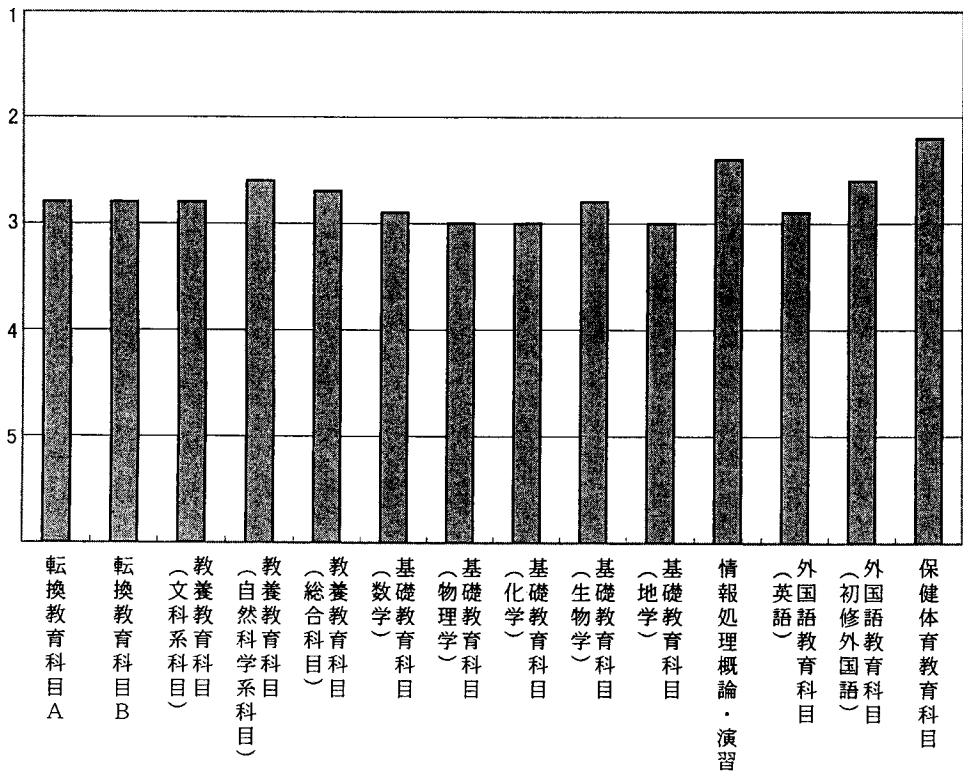
質問：授業内容に興味・関心をもつことができたか

全体



1：全くそのとおりである 2：どちらかと言えばそうである 3：どちらとも言えない  
4：どちらかと言えばそうは思わない 5：全くそうとは思わない

全体

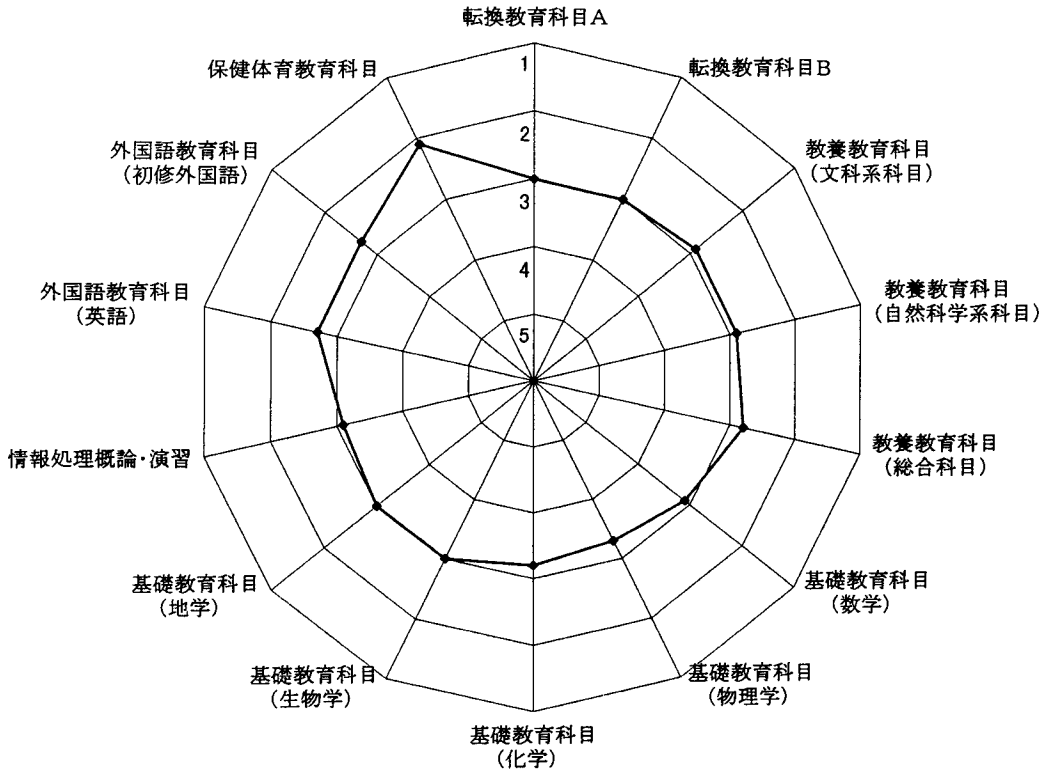


### 全学教育科目に関する学生アンケート

授業理解度

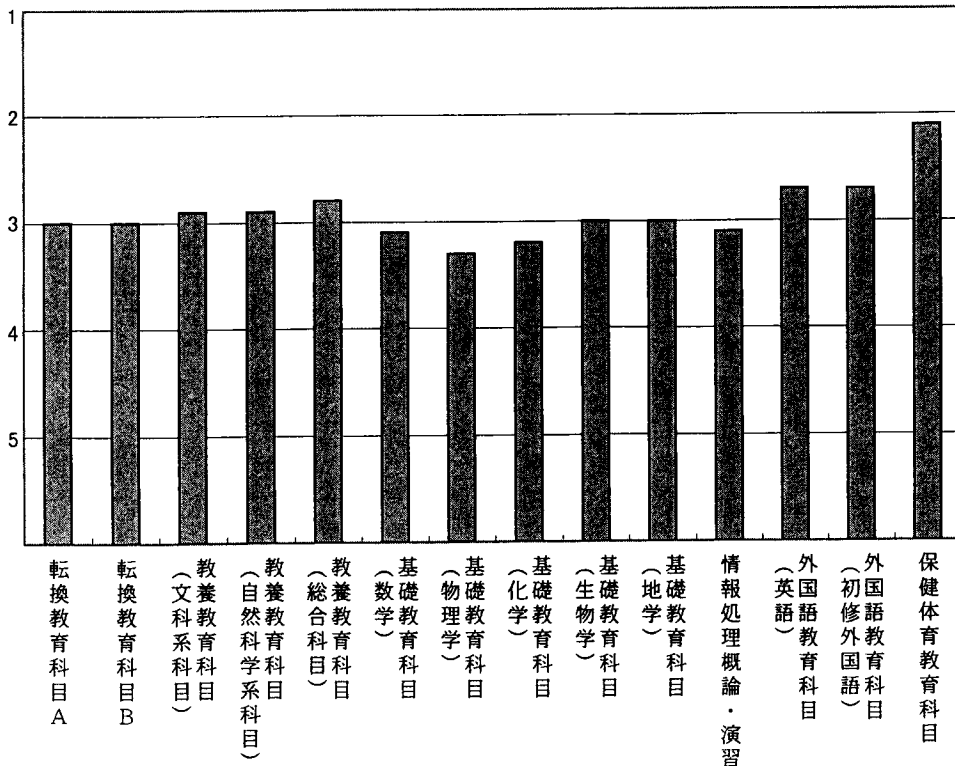
質問：授業の難易度が適切で内容をよく理解できたか

● 全体



1：全くそのとおりである 2：どちらかと言えばそうである 3：どちらとも言えない  
4：どちらかと言えばそうは思わない 5：全くそうとは思わない

■ 全体

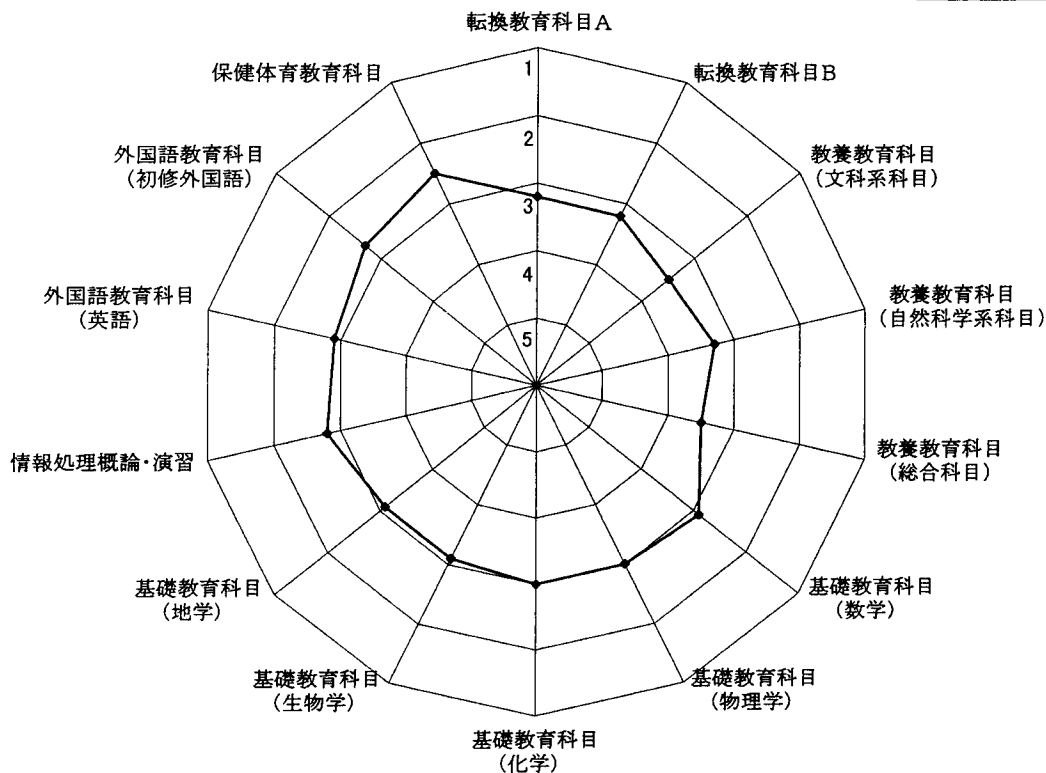


## 全学教育科目に関する学生アンケート

授業参加体制

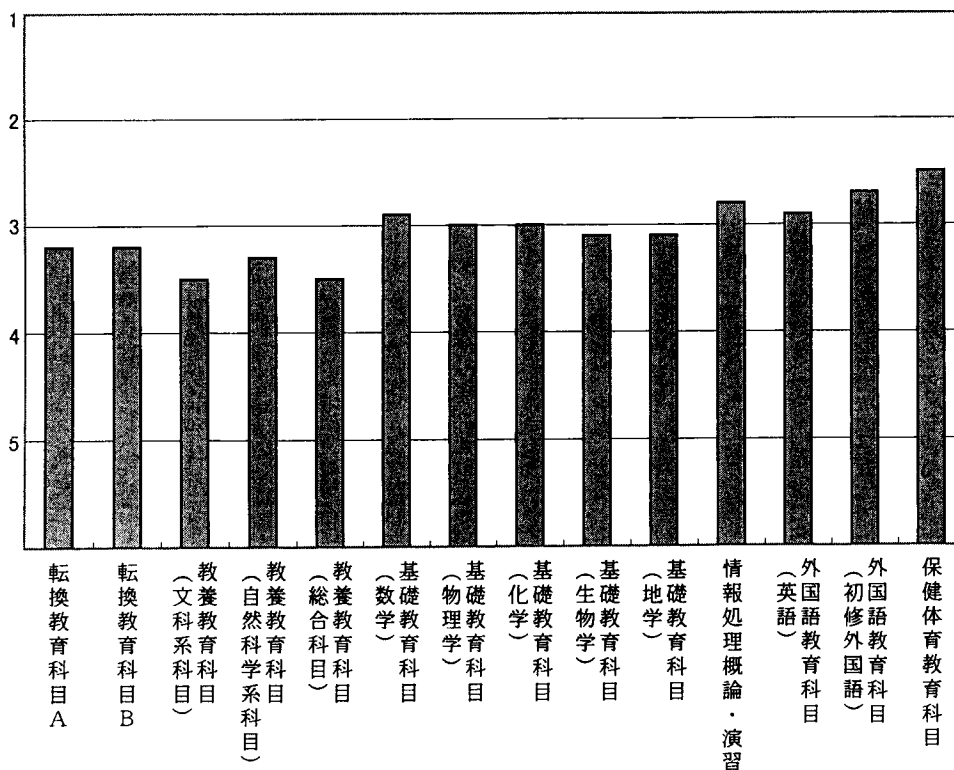
質問：履修人数や設備は授業に意欲的に参加できる体制であったか

● 全体



1：全くそのとおりである 2：どちらかと言えばそうである 3：どちらとも言えない  
4：どちらかと言えばそうは思わない 5：全くそうとは思わない

■ 全体

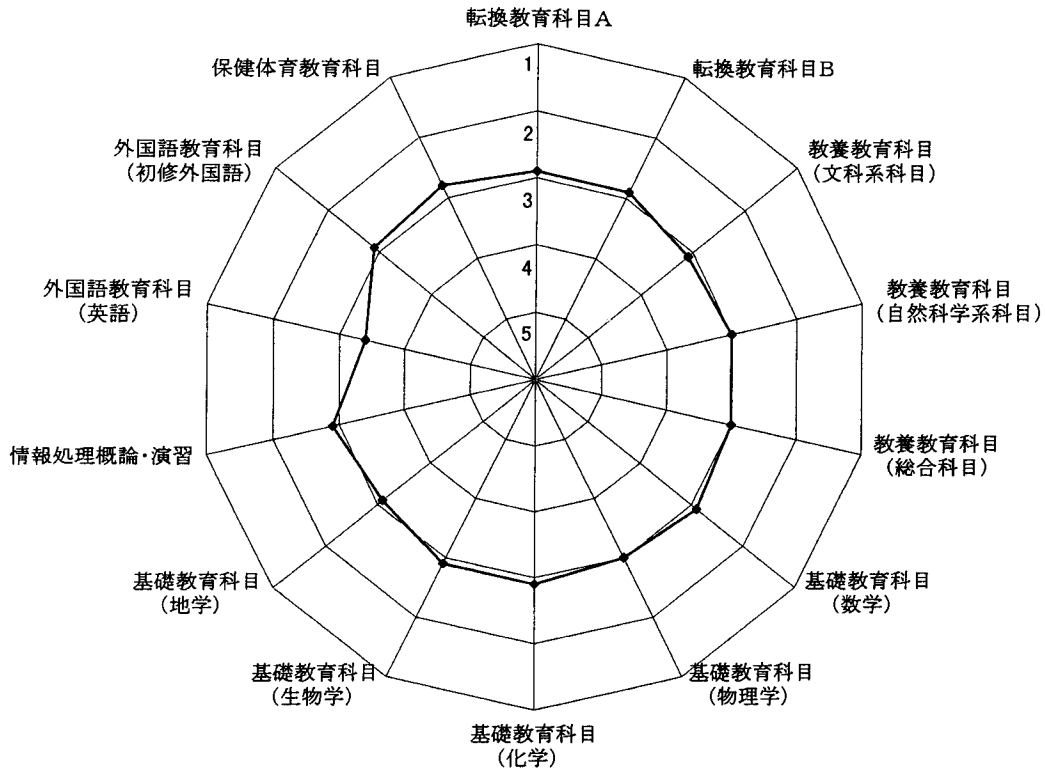


### 全学教育科目に関する学生アンケート

授業目標の達成度

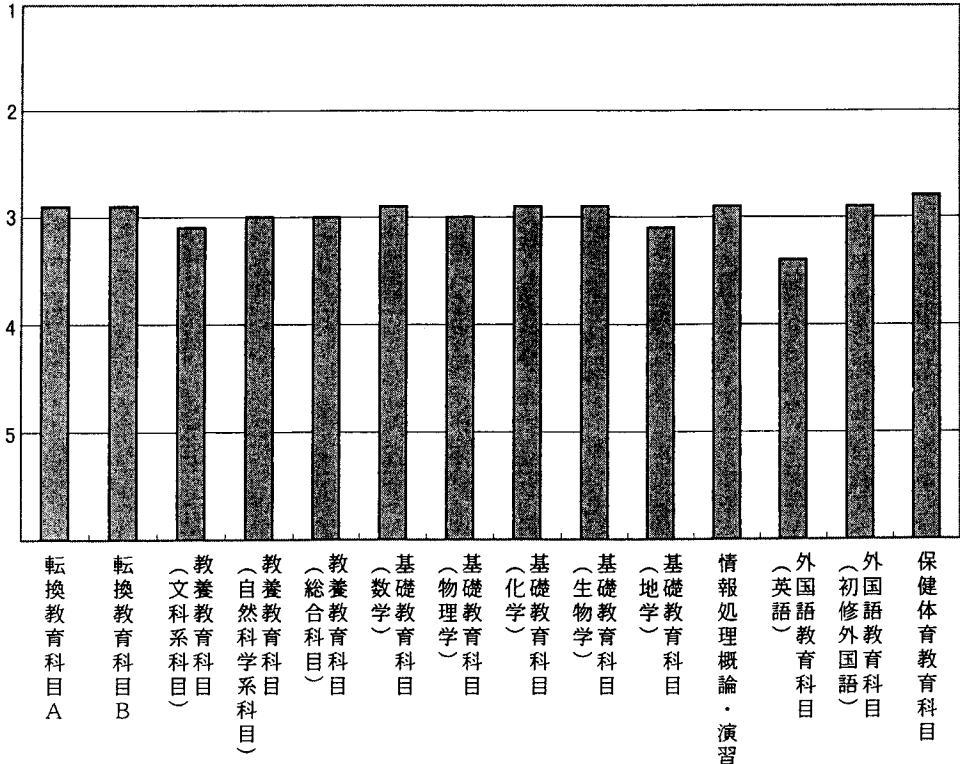
質問：各授業科目が掲げる目標を達成し得たか

● 全体



1：全くそのとおりである 2：どちらかと言えばそうである 3：どちらとも言えない  
4：どちらかと言えばそうは思わない 5：全くそうとは思わない

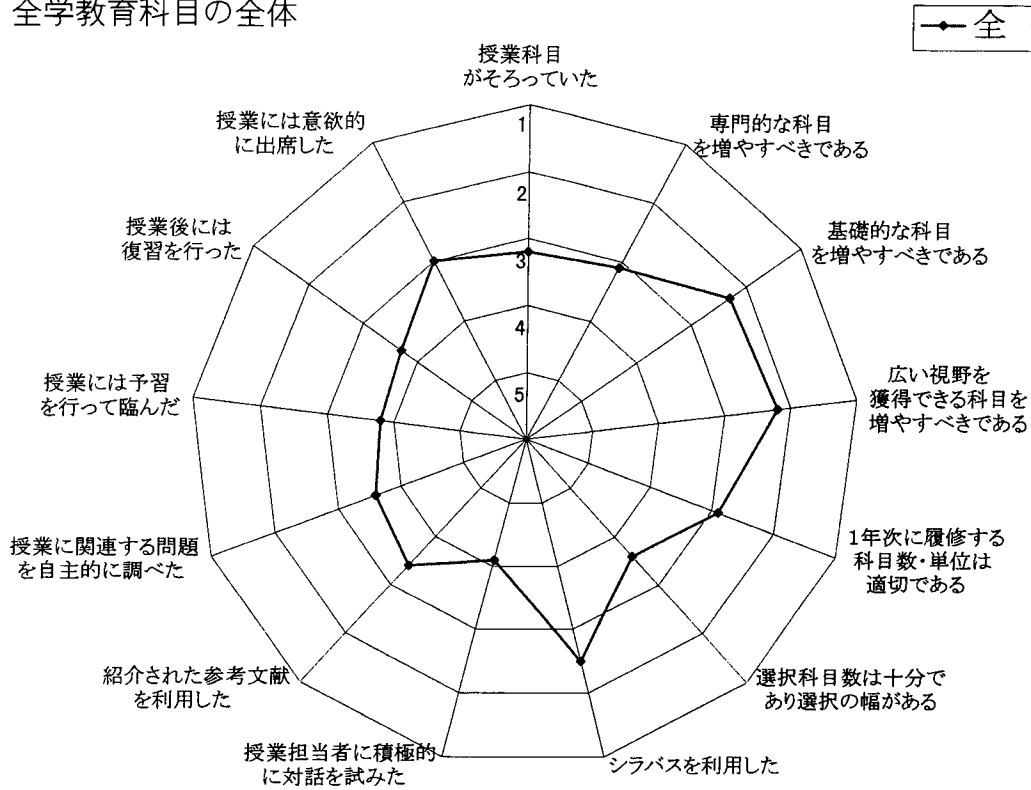
■ 全体





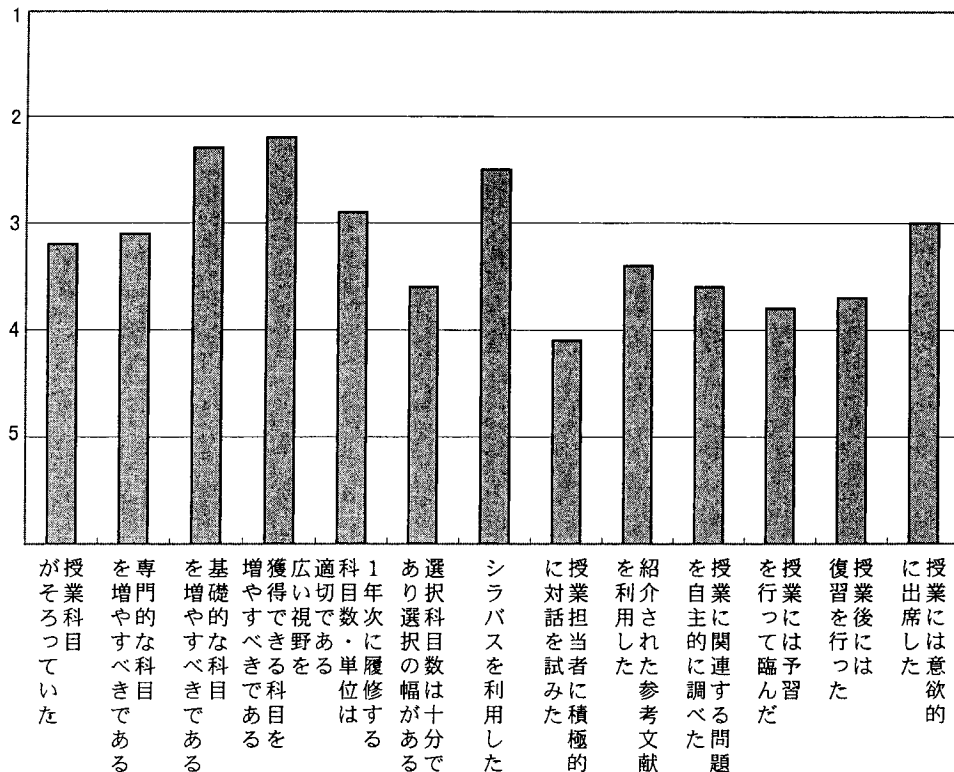
## 全学教育科目に関する学生アンケート

### 全学教育科目の全体



1：全くそのとおりである 2：どちらかと言えばそうである 3：どちらとも言えない  
4：どちらかと言えばそうは思わない 5：全くそうとは思わない

全体





### あ と が き

- \* 新入生の皆さん入学おめでとう。いよいよ諸君の大学生活のスタートです。本学では学部一貫教育体制のもと専門教育科目と全学教育科目を学んで行くことになります。諸君が全学教育科目を学ぶ中で専門分野にとっての基礎的素養を身につけるとともに、専門の枠をこえた広い視野と総合的な判断力を獲得できるよう願っております。
- \* 本号には全学教育を担当されこの3月をもって退官された先生方の思い出の記、情報通信倫理をめぐる問題、4年生の学生諸君による投稿や昨年行った学生アンケートの集計結果などの盛りだくさんの内容を掲載することができました。
- \* 新入生諸君は一日も早く新天地に慣れ、一人ひとりの個性ある学生生活を創造して行ってください。そして、現在抱いている新たな希望と大学への期待を大事にしつつ、目標に向かって一層の努力をしてほしいと祈っております。
- \* なお、本広報は開かれた広報紙ですので、全学教育科目に関する自由投稿を歓迎します。希望する学生は、大学教育研究センターあるいは国際文化研究科等事務部教務第一掛・同第二掛宛て原稿を送付してください。